

# 東崎山だより

令和2年10月 通刊153号

355-0044 東松山市正代755-1

電話・FAX 0493-34-6555

email: semyojuji@yahoo.co.jp

HP: tosaki.web.fc2.com/index.htm

携帯 090-2446-5209

## 「映画の中での話」で終わって欲しい

先日コロナワクチンの開発が進む中、日本へ供給を契約をしている3つの製薬会社のうちの一つのイギリスのアストラゼネカ社が日本を含む数カ国で行われている臨床試験を中断したというニュースが流れました。

早くて秋にも投与が始まると期待されていたのですが、改めてワクチン開発は一筋縄ではいかないものだと痛感しました。

さて、先日今から40年前に作られた「復活の日」という映画を見ました。某国陸軍が研究中の細菌兵器のウイルスが事故によって拡散。ワクチンを開発する間もなく、世界中に感染が広まり、人類は滅亡の危機を迎え、ウイルスと核ミサイルの脅威の中、唯一ウイルスの拡散を免れた日本を含む数カ国の南極基地の人々が懸命に生き延びようとする姿を描いた作品です。

原作は小松左京。監督は深作欣二。主演は草刈正雄。アメリカ大統領を演じたグレン・フォードをはじめ、ハリウッドスターが多数出演し、当時としては22億円という破格の大金をかけた作品で、南極で大規模なロケを敢行し、本物の潜水艦やドローンなども登場します。

本作が扱っているのは細菌兵器なので、もちろん全てが同じというわけではありませんが、不気味に映される新型ウイルスの画像、特にイタリアで被害が広がっていきさま、日本では皆がマスクをし、肺炎が家族中に感染し、やがて医療従事者にも感染が広がっていき…など、あまりにも今の新型コロナと状況が似ていて、大変驚かされました。

小松左京が原作を書いたのが、1964年のオリンピックの年ですから、日本ではまだ感染症に対する医学は進んでいなかった時代に、まさに先見の明があったということです。

緒方拳が演じた医師が、先の見えない医療崩壊の中でこんなせりふを吐きます。「どんなことにでも終わりはある。どんな終わり方をするかだが…」。これはやはり予測不能の新型コロナ感染にも当てはまる、とても怖いせりふでした。

本作には「この作品を、全ての疾病と戦う人に捧げる」という献辞が記されています。

また、テーマ曲「ユー・アー・ラブ」でジャニス・イアンは、「再び歩きはじめるのにまだ遅くはない。遅過ぎることはない。愛しい人よ、どうか健やかに」と、歌っています。

現実の新型コロナ問題が、本作とは違って、「これはあくまでも映画の話」と言えるような終息を迎えることを願うばかりでした。

# お矢のせ

## ■坐禅会・写経会 ～みなさんもおいでになりませんか～

～静寂な雰囲気の中で、心身ともにさわやかに～

### ○第2・4日曜日

■坐禅会 7時～7時40分 リラックスできる服装でお出かけください。

■写経会 8時～概ね9時

写経台紙（お手本）、写経用紙はこちらで用意いたします。

硯、筆（毛筆）、筆ペン、墨等は用意いたしますが、数に限りがありますが、使い慣れた物をお持ちの場合はご持参ください。

■ヨガ教室（第2日曜日のみ） 概ね9時～10時 無料

\*坐禅会だけの場合は、参加費は無料、写経会の入会費は1000円、納経料は300円です。

写経とは本来、印刷技術がなかった時代に、僧侶達が教えを学ぶために、一つの経典を自分で書き写すことでした。現在では、一般の人々が心の拠り所として、あるいは願いや誓いを込めて行うようになりました。印刷された経典がいくらでも手に入る時代です。それでも今なお写経が続けられていることに意味があります。

写経は、一文字を一仏として、心を集中し、ひたすら、み仏を信じて経文を書き綴ります。

めまぐるしい日常の生活の中で、姿勢を正し、雑念を取り去って写経を行うことは、いつも通りの時間の流れを変えることです。写経する間は日常を離れ、自分を見つめ直す絶好の機会となります。そして煩惱の炎がなだめられて心が穏やかにしずまり、正しい智慧がわくものです。何もかも忘れ去る時間を作ることは現代人にとって大きな意味があるでしょう。

文字の上手下手は無関係、下に台紙を置いて、台紙の文字をなぞります。

終了後、お茶を飲み、お菓子などいただきながら楽しい会話でひとときを過ごします。

## ■今月のことば 「三密(さんみつ)」 ～密集・密接・密閉？～

「三密」とは、仏教の教えで、身密(しんみつ)・口密(くみつ)・意密(いみつ)を指し、密教の修行法の要素のひとつです。

身密とは、仏の身体のはたらき。

口密とは、教典を読み、真言・陀羅尼を誦すること。

意密とは、仏の心のはたらき。

すなわち、身体・行動、言葉・発言、心・考えについての教えということ。

新型コロナウイルス感染症拡大防止で言われる「三密」にも当てはめて考えると、

身密は、自身が感染しないよう、また自分から他人に感染させないよう、手を洗ったり、不要不急の外出を控えるなど命を守る行動をすること。

口密は、孤独を防ぎ、心身の健康を保つために友人たちと電話やメールなどで交流をする。また、悪口を言わない、人の揚げ足をとらない、デマを流さないなど。

意密は、多くの情報にまどわされて、心を乱さないこと。外出できない状況でも、楽しくなることをいろいろとやってみるなど。

## ■今月の行事等

○坐禅会・写経会 11、25日 \*11日 9時 ヨガ教室

○寺子屋 3、10、17、24、31日